

親子カヌー教室から

R 3 . 7 . 9

7月3日の土曜日、学校の裏にある鳴瀬川で、3年ぶりに「親子カヌー教室」を行うことが出来ました。一昨年は、大雨のため、昨年はコロナウイルス感染症対策のため中止だったからです。3年ぶりということで、子どもたちも保護者の方々も笑顔いっぱい活動していました。親子が楽しく活動している様子を見ていて体験活動のすばらしさを改めて感じることができました。

活動の終わりの会で、子どもたちには、

- ①下伊場野の大自然に感謝してほしいこと
- ②親子でカヌー教室が出来ることに感謝してほしいこと
- ③「親子カヌー教室」を行うために、かかわってくださった水辺の楽校の方々や講師の先生、そしてお父さんやお母さんに感謝してほしいこと

を伝えました。

この活動でお世話になった、水辺の楽校運営協議会の皆様、事前の研修会や当日のカヌーの指導をしていただいた講師の皆様、そして、朝早くからカヌー等の運搬、テント設営、後片付けまでしていただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

今後も子どもたちには、コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら、多くの体験活動に取り組みせていきたいと考えています。

最後に、平成22年に報告された「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」の主な結果を載せておきました。少し古い調査結果ではありますが体験活動の大切さを少しでもご理解いただければ幸いです。

【成人調査】

- ①子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいをもっている人が多い。
- ②子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、「丁寧な言葉を使うことができる」といった日本文化としての作法・教養が高い。
- ③小学校低学年までは友達や動植物とのかかわり、小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切。
- ④年代が若くなるほど、子どもの頃の自然体験や友達との遊びが減ってきている。

【青少年調査】

- ①幼少期から中学生期までの体験が多い高校生ほど、おもいやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高い。
- ②体験が豊富な子どもほど携帯電話を持っている・読む本の冊数が多い、という割合が高い。また、コンピュータゲームやテレビゲーム遊びをしない、という割合が高い。
- ③小学校低学年までは、友達や動植物とのかかわり、小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切。

